

# 鹿嶋さん

第 7 号  
 発行日 平成25年 9月10日  
 発行先 新屋鹿嶋祭保存会  
 発行責任者 伊藤 富美雄  
 編集 保存会広報部  
 事務所 日吉神社会館

## 北新町き当番町に鹿嶋船が出揃う

### 鹿嶋船流しの伝統・精神を引き継ぐ

本年六月九日、三五〇余年の歴史をもつ新屋鹿嶋祭が初夏の爽やかな日差しをうけて行われました。古くから近郷近隣の大きな祭りとして知られてきた鹿嶋祭は、子供達の健やかな成長と息災安全を祈ってきました。鹿嶋祭は「鹿嶋流し」「鹿嶋送り」と呼ばれていますが、神社でお祓いを受けて地元に戻ると鹿嶋人形を雄物川に送り出すことで、子供らの一年間の厄を流すという祭の精神がそこに生きています。今では、河



川環境保全から「鹿嶋流し」の光景はめっきり少なくなりました。

### 会員七四名で後世への継承活動

新屋鹿嶋祭保存会は、参加町内会や鹿嶋祭を支える多くの方々のご協力と熱意に支えられ、発足三年目で七四名の会員で組織されています。保存会は、鹿嶋祭の歴史の調査研究、保存顕彰ならびに承継者の育成、後世に正しく伝承することなどを目的に活動を行なっています。

具体的には、①鹿嶋祭の各町内鹿嶋船の写真収集と調査アンケート、

②鹿嶋祭ポスターの掲出、③ホームページでの広報活動、④鹿嶋太鼓合同講習会とCD版製作と普及、⑤ウエスター祭りでの写真資料展、⑥講演会など取り組んできました。

### 地域づくり交付金を活かす事業活動

秋田市から「地域づくり交付金事業」が決定され、(イ)保存会ホームページ開設費、(ロ)ポスター製作と配布、(ハ)幟旗製作、(ニ)鹿嶋の半纏製作、(ホ)鹿嶋祭の唄と太鼓CD製作を手がける予算が認められました。

八月四日、第3回定期総会では、

一年間の総括と活動方針が討議され、「鹿嶋祭の今昔を語る座談会」(新屋の名士が鹿嶋祭を大いに語る)の



「模範的な鹿嶋船の製作」を模索、展望しています。鹿嶋祭保存会製作部を中心に英知と想像力を結集しながらも、製作面での資金づくり、展示場所の確保など課題が山積します。今後とも鹿嶋祭保存会に対してお導、ご協力をお願いします。そして、鹿嶋祭保存会活動に意欲的な新入会員の加入をお待ちします！

開催やウエスター祭りでの写真・資料等の展示、各町内鹿嶋船DVD放映など事業計画案が決定されました。模範的は鹿嶋船の制作を模索展望

### 第三回鹿嶋祭保存会総会で選出された役員

- 会長 伊藤富美雄 (大川町)
- 副会長 石澤千秋 (日吉神社宮司)
- 〃 富田 漣 (十條団地)
- 〃 海風敏夫 (下表町)
- 総務(事務局長) 藤枝隆博 (大川町)
- 総務(会計) 大塚正一 (緑町)
- 理事(日吉神社役員理事) 赤坂光一、斎藤政雄、鈴木恭治、山本義臣、(町内会長及び代表理事) 小島初男(緑町)、川田直政(北新町)、南波郁夫(南新町)、高橋大和(関町)、鈴木富夫(愛宕町)、阿部民樹(関町後)、安田正(日の出町)、金澤國太郎(比内町)、岡田徳美(沖田町)、大倉孝作(南団地)、遠藤一紀(田尻沢)、今野周次郎(高美町)、高橋昭一(駅前町)、高橋伸(上表町)、小玉隆太郎(中表町)、高橋勝(十條団地)、藤田友好(市営住宅)、大塚誠智(下表町)、狩野紀男(大川町)、佐々木宏治(笹町)、渡邊憲一(笹町)、小野良治(愛宕町)

平成25年度  
鹿嶋船

# どこの鹿嶋船かわかりますか？



⑥ 一番入船です！

⑤ あらや大川散歩道雪まつり



④ 動く人形が楽しい



① 入船は6番目



⑦

海岸防備の衛士が新屋に



③

一本木を守ってます



②

文化財級の鹿嶋人形



⑨

美大は我が町内会



⑧

当番町内会ご苦労様

## 「鹿嶋船町内会はどこだ」クイズ

上記の①～⑨までの「見返り人形」をみて、どこの鹿嶋船かわかりますか？ヒント（写真内文字）を参考に、わかった方は官製はがきで番号と町内会名を記載して応募して下さい。鹿嶋祭保存会からもれなく記念品を差し上げます。応募方法（締切は10月下旬）

官製はがきを使用して、「①=〇〇〇町内会」と記入して、①～⑨まで当てて下さいね！宛先 秋田市新屋大川町内8-6 藤枝隆博まで ご住所、お名前、電話番号をお忘れなく！

鹿嶋祭保存会では、加入者を募集しています。年会費一口千円。事業部、広報部、実技部、調査研究部、製作部の5つの部会を中心に活動を展開中。来たら、鹿嶋祭保存会に！町内会長または左記まで連絡を。

西部市民サービスセンター

ウェスター祭りに鹿嶋祭の  
珍しい写真・貴重な資料等を展示予定！  
10月11日（金）～13日（日）ウェスター2階  
鹿嶋祭の古い写真、貴重な資料などお持ちの方は鹿嶋祭  
保存会まで情報をお寄せ下さい。町内会長又は下記まで。

連絡先 828-1871 事務局 藤枝隆博

## 「鹿嶋流し」行事由来

カッコウの声か森に響き、時折強い夏の日差しが差し込む頃、新屋の鹿嶋さんが行われる。鹿嶋さんは、端午の節句、月遅れの6月5日に行われてきたが、最近は六月の第二日曜日に行っています。端午の節句は桃の節句などと並ぶ五つの節句の一つ、日本の古い風習の一つであり、仁徳天皇の頃より行われていると言われています。

新屋の端午の節句は、これに佐竹氏（秋田藩主）の旧領地の茨城県の鹿嶋神宮（御祭神！タケミカヅチノカミ！尚武の神！）を崇める鹿嶋信仰が結びついて独特の形になっています。佐竹氏の入部後この形になったと思われます。時代によって祭の仕方、行事の形に多少の変化はあっても、鹿嶋さんは宵節句、露踏み、鹿嶋祭の三部に分けることができます。

《宵節句》

子ども達が銭湯（風呂）に入り、菖蒲湯で身を清める。邪気を祓う意味で、軒先にヨモギ、菖蒲を飾り、家毎に鹿嶋大明神の小旗を立てる。鯉のぼりを上げ、家の中では床の間の掛け軸を鐘馗様に換える。

子どもらが、手作りの鹿嶋人形に笹巻きや柏餅をお供えし、お灯明を灯し柏手を打って息災を祈る。

やがて宵節句のお膳につく。精進料理で身を清め、ヨモギ酒で不老長寿を祈り、ヨモギの箸で厄災除けの願を掛けさせやかな団欒の中に子供の成長を祝い、祈る。